

中国春季リーグ戦男子1部 Final stage 結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

5/10、11 に広島経済大学石田記念体育館において、中国春季リーグ戦男女1部 Final stage が開催されました。

広島大学男子の結果は、以下のとおりです。

vs 広島修道大学

○3-1 (25-17、22-25、25-11、25-20)

vs 福山平成大学

●0-3 (15-25、12-25、16-25)

vs 東亜大学

●1-3 (13-25、19-25、25-23、18-25)

vs 広島国際大学

○3-0 (25-20、25-11、25-16)

(男子最終順位)

1位 福山平成大学 10勝0敗

2位 東亜大学 8勝2敗

3位 広島経済大学 6勝4敗

4位 広島大学 4勝6敗

5位 広島国際大学 2勝8敗

6位 広島修道大学 0勝10敗

サーブレシーブ賞 水谷 匡志

ベストスコアラー賞 山下 歩

レシーブ賞 松本 匠

(中国学連 HP)

<https://chugoku.hiroshima-u.ac.jp/league-haru-top.html>

3年生以上がスタメン6人を占める男子は、今季からメンバー入りした鎌田（4年・愛知・名東高校）、松本（3年・兵庫高校）、出口（3年・長崎・五島高校）が、それぞれ自身の持ち味を発揮できるようになり、チームの形が少しずつ出来つつある一方で、水谷（4年・三重・松阪高校）と山下（4年・広島・安古市高校）をベンチに下げた広島修道大学戦の2セット目は、序盤からミスが目立って相手の一方的な展開となり、また、ピンチサーバー陣はリーグを通して活躍する選手に限られるなど、チームとしては一本の線ではなく点になっている、点が際立っている印象を受けました。今季も多くの1年生が加入してくれましたが、一人あたりのボールを触る機会としては減ることになりますので、女子部と練習日や練習時間を分けるなど、本気で工夫や改革を進めないと、出来る人はどんどん出来て、出来ない人はどんどん出来なくなるチーム内の格差が広がってしまいます。福山平成大学も多くの部員で構成されていますが、コーチやアナリスト、マネージャーや応援などのサポートポジションだけではなく、敗戦濃厚の場面で登場する選手、スタメンを休ませるために登場する選手など、自分が活躍したい、と言うよりは、自分が与えられたポジションでチームに貢献したい、と言う強い意志が伝わってきます。広大の現状は、活躍する、しないだけが価値観の中心になりがちで、スタメン外やベンチ外のポジションでも誇りを持っているようには残念ながら感じません。自分が活躍したい、から、チームの勝利に貢献したい、と全員が思えるチームにならないと、一度失った3位の座を取り戻すことはできません。ただ、点が目立っていると言うことは、それだけ太い線になる可能性もありますので、大人数でもコミュニケーションをしっかりとって、役割分担ができるチームに成長して欲しいと思います。

2年生は昨年はあまり出場機会がありませんでしたが、まずは新谷（2年・広島城北高校）が正セッターとして最終週の4試合を上げきりました。開幕週の不本意な結果を払拭するような落ち着いたパフォーマンスで、ラリー中やレシーブでも存在感を発揮してくれました。また、レフトの山口（2年・広島・安古市高校）は身長170cmながら思い切りの良いプレーが目立ち、次期エースとして山下の背中を追いかけてくれていることが伝わってきます。日南（2年・広島・五日市高校）はピンチサーバーとしてブレイクを果たし、今最も期待感のあるプレーヤーとしてスタンバイしてくれています。いずれも今後はより難しい場面、苦しい場面で任されることが増えると思いますので、そこでも結果を残せるように上を目指して頑張ってください。1年生も活躍を見せ始めてくれています。メンバーが入れ替わったときに、3年生の松本が声をかけて環境を整えている姿が印象的でした。普段は水谷や山下の発信を受けている、待っているイメージがありますが、2人がいないと2人分の指示を出すことが出来ていて、普段からよく考えていることと、それを実際に行動できることは非常に頼もしく感じました。4年生がいる状況で全く同じことをするのは難しいと思いますが、4年生からすると、自分たちがいなくなってから初めてできる、初めて気付くのは寂しいことなので、チームの中心として下級生も4年生も引っ張っていく気持ち

で、今まで以上に積極性を大切にして欲しいと思います。

東亜大学は1年生のときからスタメンで出場し続けた世代が卒業し、7人中6人が1年生で全員がリーグ戦初出場の若いチームだったこともあり、広大戦では広大のサーブミスに付き合ってしまう、広大側としてはキャッチが返りセンター線が使い続けられたこと、ブロックとレシーブからエースに託す軸がきちんと出来ていたことで、東亜大学戦では6年半ぶりとなるセット奪取となりました。これまではほとんどどうしようもない攻撃に歯が立ちませんでしたが、ブロックでプレッシャーをかけられれば勝機が生まれると分かったことは大きな収穫だったことと思います。ただ、今回は広大のサーブが入らないことで相手のバレーボールが逆に難しくなりましたが、これではセットは奪えても試合に勝つことはできません。春は上位2校との対戦でこうした波乱がよく起こりますが、秋に同じような波乱が起こったことは一度もありません。相手は1年生が中心でこれから強くなるのは間違いありませんので、その強くなった相手に波乱ではなく実力で対抗できるだけのチーム力をつけて行って欲しいと思います。男子も去年は西日本インカレで状態が落ちている選手が多く見られましたので、これから先もう一度状態を上げていけるように、個人の目標とチームの目標を明確に定めて練習に取り組んでいきましょう。

今週末(5/17)は広島大学北体育館で春季リーグ入替戦が行われます。

2部2位の広大女子は、第1試合で1部5位の広島国際大学と対戦します。

引き続きよろしく願いいたします。